

石川県中小企業団体中央会 Facebookページ



アカウント登録
Facebookを使うと、友達や同僚、同級生、仲間たちとつながりを深めたい。モバイル、スマートフォンからもアクセスできます。

石川県中小企業団体中央会 いいね!
ファン登録をお願いします。
★より身近な情報提供を行います。
★アンケートなどを行って、より充実した情報を発信します。
※なお、ファン登録を行うためには、Facebookアカウントを取得(無料)する必要があります。



石川県中央会会報 No.4 平成24年11月発行

石川県中小企業団体中央会
〒920-8203 金沢市鞍月2丁目20番地
石川県地域産業振興センター新館5F

TEL (076) 267-7711 (代表) FAX (076) 267-7720
URL <http://www.icnet.or.jp> E-mail chuukai@icnet.or.jp (代表)

石川お 中央会会報

石川県中央会会報
2012
No.4

巻頭ゼミナール
・小さな街での地域活性化 ~山形県長井市で
・フェイスブック活用のごたえは? 課題は?
第64回中小企業団体全国大会(宮崎県)へ参加



石川県中央会会報

2012

No.4

石川県 中央会報

題字

故 安田隆明 名誉会長

巻頭ゼミナール

- 2 小さな街での地域活性化 ～山形県長井市で
神戸国際大学経済学部 教授 中村智彦氏
- 5 フェイスブック 活用のごたえは？ 課題は？ 中小企業のための発信力講座③
企業、団体の情報発信担当者に聞く
株式会社エイチツーオー 代表取締役 北陸フェイスブック研究会 会長 加茂谷慎治氏

トピックス

- 9 こちら中小企業労働関連施策情報室

中央会事業だより

- 10 「地域中小企業の人材確保・定着支援事業」を実施しています =取り組み報告2=
- 12 “個人も企業も成長する” ワークライフバランスセミナーを開催
- 13 食の商談会と事前セミナーを開催
- 14 =夏休み特別企画=加賀友禅彩色体験教室を開催
- 15 第64回中小企業団体全国大会(宮崎県)へ参加
- 17 地域野菜「金沢湯涌かぶら」地域ブランド化に向けて前進
- 18 加賀の紅茶2012 新茶発表会『茶室で和紅茶のおもてなし』in時雨亭を開催
- 19 ナイスショット! 第27回組合交流ゴルフ大会結果報告
- 19 がんばれ福島県! 会津若松方面への視察研修事業を実施(事務局協議会)
- 20 『人材養成塾・Fight!』
～集まれ! 次世代経営者たち・参加者同士のノウハウ交流～を開催(青年中央会)
- 20 組合青年部全国代表者会議、組合青年部全国講習会(福岡県)へ参加

News

21 新聞掲載記事より

小松織物工業協同組合／石川県陶磁器商工業協同組合／片町商店街振興組合
竪町商店街振興組合／沢野ごぼう事業協同組合／金沢漆器商工業協同組合
石川県箔商工業協同組合／協同組合加賀能登のれん会／近江町市場商店街振興組合
協同組合兼六園観光協会／石川県鮎商生活衛生同業組合
石川県第三機器協同組合／白山ふもと会

国際協同組合同年

組合情報Pick up!

- 28 =石川県記念大会を開催=
- 29 =組合運営Q&A=
- 30 Pick up! 全国の先進組合事例 =組合資料収集加工事業報告書より=
①外部支援による事業の活性化:石川県茶商工業協同組合
②販路・市場の開拓:商店街振興組合三条通ショッピングモール

お知らせ

- 32 個別専門相談室開催のご案内
- 32 石川県最低賃金の改正のお知らせ(時間額693円)
- 33 県内の情報連絡員報告(9月)
- 39 くみWai広場(協同組合金沢問屋センター)



千枚田 あぜのきらめき
30,000個のキャンドルを灯す大イベント「あぜの万燈(あかり)」は10月13日(土)に開催されましたが、今度はそのキャンドルをソーラーLEDに変えて再現。
一面ピンク色に煌めく幻想的なイルミネーションが楽しめます。実施期間は11月10日～2月17日までの100日間。



金沢城・兼六園ライトアップ
～秋の段～
“加賀百万石 金沢城・兼六園四季物語”と題した観光キャンペーンの一環として、1年を通じて定期的にライトアップが行われています。“秋の段”は、11月17日(土)～18日(日)と11月23日(金・祝)～25日(日)の17:30～21:00に開催されます。
「雪吊り」と「紅葉」に併せてライトアップされます。
普段は見られないライトアップされた金沢城公園と兼六園をお楽しみ下さい。

小さな街での地域活性化

～山形県長井市で

中村智彦氏／神戸国際大学経済学部 教授

北陸地方でも、新幹線開業の日が迫ってくる中で、地域振興や観光PRをどのようにするか議論なされている方も多いだろう。そこで、今回は今年、筆者が関係したあるプロジェクトについてご紹介してみることとする。

今年度、山形県長井市の長井商工会議所で行われる「全国展開プロジェクト」を活用した特産品開発のお手伝いをする事となった。長井市とのお付き合いは、すでに10年近くなろうとしている。そんな中での今年のテーマは、「馬肉、行者菜、米粉」を活用した名産品創出である。

震災の影響

東北各県は、震災の被災地はもちろんのこと、直接的には被害のほとんどなかった青森県、秋田県、山形県でも風評被害などから農産品の売上の減少、観光客の減少など、大きな影響を受けている。

山形県長井市でも、震災前の10年ほどかけて、市内の観光振興に取り組み、第三セクターである山形鉄道フラワー長井線も多くの観光客を集めつつあった。それだけに、震災によるダメージは大きなものとなっている。

そんな中で、商工会議所が取り組む特産品開発事業である。今回は、調査事業が主であり、予算もそう多くはない。そんな中で何をするかは、商工会議所の若手職員に任せられた。

やらされ感が強い

「正直に言うと、市役所や商工会議所からの話って、ありがたいんだけど、押し付けられるというか、やらなきゃいけないというか要するに押し付けられているという、やらせ感が強いんだよね。」

ある経営者は率直に感想を述べてくれた。補助制度を探してきて、なんとか利用できるように工夫をして予算も確保するのだが、「自分たちの仕事を作るために仕事をしているのじゃないのかね」などと批判されてしまうことも少なくないと、別の経済団体の職員は嘆く。結果として、補助金がもらえて、自分たちは腹が痛まないから、まあ、やるかとなるだけでなかなか前に進まないことが多い。

「要するに自分たちでやっているという感じがし

ない。楽しくないんだよね・・・」別の経営者もそう指摘する。このやらされ感を少しでも取り除くためにはなにが必要なのか。「楽しければ、みんな自然に集まるのではないだろうか。」

実はみんながんばっている

新商品開発事業の第一回目の会議が、6月に開催された。集まったのは、主に長井市内の飲食業などを営む経営者たちである。実は長井市には、商工会議所青年部が中心になって開発した「ばかうま鍋」という商品がある。2010年12月の第16回天童冬の陣「平成鍋合戦」では準優勝、長井麺類飲食組合と連携し、すでに市内の飲食店で提供が始まっている。そんな中で、さらに新商品開発ということはできるのか、不安視する声もあった。

会議当日、集まった経営者たちから出てきたのは、今回の事業で使用が考えられている馬肉、行者菜、米粉といった素材を、それぞれが活用し開発しているということだった。誰から指示されるでもなく、補助金をもらうでもなく、実はそれぞれが工夫を凝らして、それぞれの店の料理として開発しつつあったのである。

「ここまで色々な料理が作られているのであれば、今までになかったものを創作する必要はない。むしろ、今まで個々で行われてきた商品の情報を集約し、どこでどんなものがあるかを把握することからスタートするべきではないか。」実は、経営者たちはみんながんばっているのであって、その情報がなかなか流れ出てこなかっただけだったのだ。

楽しくするにはどうすればよいのか

「楽しくすれば自然と人も集まる」という意見から、いかに楽しくこの事業を盛り上げていくかも課題になった。しかし、予算もその用途も限られている。無い中でどのように盛り上げていくのか。そこで出てきたのが、8月29日馬肉の日とゆるキャラの作成であった。予算が無い中、むしろ他では多額の予算を講じているイベントやゆるキャラに取り組むのは、逆ではないのかと思われる。しかし、今回、これらを予算が無くても推進できる条件がそろっていたのである。

それはなによりも、デザインの能力があり、ゆるキャラを生み出す力をもっている商工会議所中小企業相談所所長代理の梅津毅氏がこの事業の担当職員であったということが第一である。第二に長井市内の事業者同士のネットワークである。今回の事業に直接関係するのは、農産事業者と飲食店経営者なのであるが、それ以外の業種の経営者も事業に関心を持って協力を申し出てきていた。第三に、私のゼミから恒例になっている山形県へのインターンシップがある。今回、この事業に対応するために一名の学生を商工会議所にインターンシップ生として派遣することとなった。

ゆるキャラの作成には、通常、専門のデザイン事務所に依頼するなどするため多額の費用がかかる。今回は、当然、そのような予算は皆無である。しかし、商工会議所の職員である梅津毅氏が以前からイラストや漫画などを描く特技を持っていることがわかってきた。当然ながら、彼がその任を負うこととなった。梅津氏から提案された複数の案を、関係者が議論し、最終的に馬をキャラクター化した「バーニック・ナガイ」を採用することとなった。早速、ホームページなどで紹介するとともに、ツイッターで「バーニック・ナガイ」のつぶやきもはじめた。

反響は意外なところから来た。飲食店などとは異なった業種の地元経営者から、「こういうのを待っていた」、「応援する」という声が寄せられたのである。

フェイスブックの活用

短い期間にさまざまなことを話し合い、決めていなくてはならない。参加者は経営者が多く、そうそう会議ばかり繰り返すわけにはいかない。そこで、フェイスブックを活用することになった。フェイスブックではメンバーになった人だけが見ることができる会議室のようなページを利用することができる。今回はこの仕組みを利用してゆるキャラのデザインやイベントの内容などについて情報の交換や議論が行われた。

従来、こうしたシステムの利用には高額な費用が発生し、さらに専門的な知識が求められた。しかし、現在はインターネットの環境さえあれば、パソコンはもちろんスマートフォンからでも簡単に利用できる。

インターネットというと、遠隔地同士での情報のやり取りが中心だと考えがちであるが、考えてみれば近くにいっても経営者同士であれば、それぞれの時間帯がなかなか合うことがない。会議の開催を重ねることで、会議疲れを引き起こしてしまう事例も数多い。その点、こうしたインターネットでの議論は、

自分の都合のよい時間帯に意見を見たり、書き込んだりできる。さらに、参考資料などをデータで配布することも可能である。まさに中小企業経営者向けのツールであるといえる。

「今回のことは、これだけ短時間でいろいろなことができたのは、フェイスブックのおかげだと思う。もし、こうしたツールを使わなかったとしたら、もっと時間がかかって実行不可能だったろう」と参加者の一人はそう言う。

データで配布する

「今まで商工会議所などの事業であれば、一定枚数印刷して配分するのが当たり前だった。」しかし、今回、とにかく予算がない。そのため、告知用に作成したビラや、PR用の冊子などは最小限の部数のみ印刷し、あとはPDF形式というパソコンで簡単に印刷ができる方法でネット上に掲載した。必要な方は、ダウンロードしてそれぞれで印刷してくださいというわけだ。これが意外と好評だった。飲食店経営者たちは、それらデータを活用し、メニューやポスターなどさまざまに活用してくれた。考えてみれば、昨今、ほとんどの商業者はパソコンを使用し、プリンターも高機能型を導入している。それぞれの店舗にあった形で活用できるようにデータで情報を提供することも大切であるのだ。

走りながら考える

8月29日、「長井・馬肉の日」とぶち上げたものの、どの程度の反響があるかまったく関係者も判らなかった。ただ、ゆるキャラ「バーニック・ナガイ」がツイッターをはじめており、その関係からテレビ局に取材依頼を入れたり、商工会議所が持っている既存のルートからの取材依頼なども行っていた。

一方、この活動をおもしろがって見てくださった商工会議所青年部の方たちが、自主的に「馬肉の日に馬肉を食べる会」というイベントをフェイスブックなどで呼びかけて開催した。当初、10名も集まるかと言っていたものが、結局、40名に近い市民や関係者が集まった。一方、テレビ局の取材は、3局から行われ、その日の夕方のニュースとして放送された。

最初の会議からわずか二ヶ月でここまで進んだ。それは、商工会議所の担当者の梅津氏に負うところが多大ではあるが、地元の経営者たちの積極的なフェイスブックなどへの参加と自主的な活動がうまくかみ合った結果でもある。

足し算の発想から引き算の発想へ

従来の発想は、足し算の発想だったが、これからは引き算の発想が必要だとよく言われる。なにか新しいことを始める時に、巨額の投資を行って外部からなにか新しいものを引っ張る。箱物であったり、従来、そこになかったものであったり、さまざまである。しかし、今、そのやり方を続けていくことは難しい。むしろ、無駄なものを削ぎ落とし、その中に真の価値のあるもの、すなわち、そこにしかないものを見つけ出すことこそが、地域の生き残りの方策であるという考え方である。

地域資源の発掘というと、つついモノを探しがちであるが、もう少し広い視野で探してみると、地域の中の人たちの中に逸材が見つかることがすくなくない。今回の梅津氏は正にこの実例であるし、周囲を支えてくれている経営者の人たちも実は「隠れた地域資源」だと考えられる。そう考えると、北陸地方にもまだまだ眠っているあるいは眠ったふりをしている「地域資源」が沢山あるのではないだろうか。

こうした埋蔵「地域資源」人材と、簡単に多くは



(c) 梅津毅2012

無料で使える道具を使って、小さい町からの情報発信、地域活性化に取り組んでいくこと。それもなには無くともやってみるという姿勢で臨むことが大切なのではないだろうか。

参考 山形県長井市のゆるキャラ：バーニック・ナガイ特集：長井情報サイト《ながいタウンナビ》長井商工会議所 www.nagai-townnavi.com



(c) 梅津毅2012

中村 智彦 (なかむら ともひこ)

【常勤】
神戸国際大学経済学部 教授

【非常勤】2012年度
日本福祉大学経済学部 関西大学商学部

【研究調査のテーマ】
・中小企業論（中小企業間ネットワーク、中小企業政策など。）
・地域経済論（製造業、商店街問題、企業誘致、地方自治体による産業支援問題など。）

☆フィールドでの調査や研究を得意としております。個人的趣味から、最近のニッチ市場やマニア市場なども関心の対象です。



【生年】
1964年 東京都町田市生まれ

【職歴】
1988年～1991年 Thai Airways International Co.,Ltd 日本支社勤務
1991年～1994年 株式会社PHP総合研究所勤務
[1992～1993年 シンガポール支社駐在]
1996年～2001年 大阪府立産業開発研究所 経済調査部国際調査室勤務
2001年～2007年 日本福祉大学経済学部 助教授
2007年 神戸国際大学経済学部 教授
2008年～ テレビ大阪『ニュース Biz』コメンテーター

【参考】
筆者のホームページ → <http://monodukuri.jp/>
神戸から山形へ行って考えた～神戸国際大学中村ゼミ
→ <http://samidare.jp/tomsemi/>

フェイスブック 活用の手ごたえは？ 課題は？

企業、団体の情報発信担当者に聞く 中小企業のための発信力 講座③

加茂谷慎治氏／株式会社エイチツーオー 代表取締役クリエイティブディレクター
北陸フェイスブック研究会会長

フェイスブック活用の秘訣を聞く

「フェイスブックを使ってビジネスチャンス！」
「企業PRにフェイスブックを活用しよう」。ネットや雑誌でフェイスブックの活用策が毎日のように取り上げられる。そうはいっても、実際に運用するには、時間もかかるし、人材にも限りはあるし……。果たして、登録はしてみたものの、フェイスブックをどのように活用したらいいのだろうか。

企業や商店街、団体の幹部や担当者にとって、フェイスブック活用策は大きな課題である。今回は、実際にフェイスブックを活用して情報を発信している企業や団体の担当者に、活用の秘訣をうかがってみた。

片町商店街

金沢市の片町商店街は、フェイスブックを活用してイベントのPRに努める。運用の中心となっているのは、同商店街振興組合事務局の中西真美子さん。当初、中西さん自身もツイッターやフェイスブックを活用するには不安もあったという。インターネットを通じた情報発信で、セキュリティは大丈夫なのか、変な書き込みがされないのか—など悩んだこともあった。

そんな中、商店街ではIT委員会のメンバーによってフェイスブック教室が開催され、フェイスブックを活用するメンバーが増えた。中西さんもメンバーに後押しされる形で、商店街のフェイスブックページ立ち上げに加わり、今では青年部を中心にメンバーのうち30人近くがフェイスブックに参加する。現在、片町商店街ではフェイスブックページを通してイベントを告知するほか、「金沢5タウンズ」の名称で連携している金沢市中心部の5つの商店街（香林坊・片町・タテマチ・柿木島・広坂）の情報も互いに発信している。

イベント情報については、単なる事前告知にとどまらない。準備段階から途中経過をフェイスブック上に公開し、本番に向けての期待感を高めるよう工夫している。イベント当日は、中西さんはイベントの対応に追われるため、リアルタイムに投稿できないが、商店街内のメンバーが写真をはじめ会場の様

子をアップして来場を呼び掛けるような連携も取られている。

中西さんは「歴史ある商店街として、これからは商店街のまちかどを紹介したり、一般の方から片町商店街の思い出を投稿してもらうような企画も考えたいと思っています」とさらなる活用に意欲を見せている。



片町商店街のフェイスブックページ
<https://www.facebook.com/katamachi.st>



片町商店街のフェイスブックページの運用に当てる中西真美子さん

8番らーめん（株式会社ハチバン）

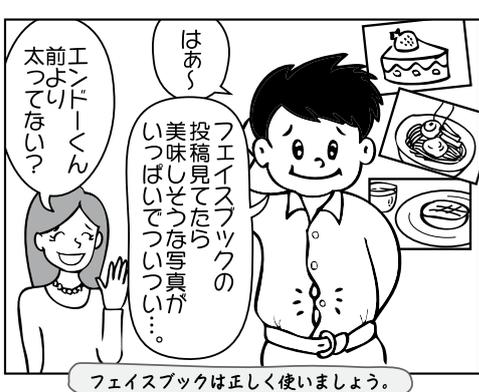
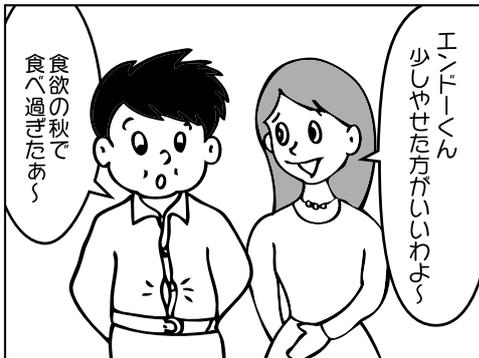
「8番らーめん」のフェイスブックページを開くと、オリジナルキャラクターが登場する。同店でラーメンを食べたことのある人にはおなじみの8のマークが入ったかまぼこをキャラクター化した「ハチコ」が楽しそうにお客様と会話をしている。

フェイスブックページを担当するのは、「8番らーめん」チェーンを運営する株式会社ハチバンの岡玉生（たまお）さんである。ハチバンがソーシャルメディア活用の検討を始めたのは2011年。後藤四郎社長が朝礼の際に「最近、ツイッターを活用した新しいPRの流れがある。うちでも導入できないか」と投げかけたのがきっかけとなった。岡さんは、最初は飲食店がツイッターを使った割引制度、いわゆる「ツイ割」などの活用方法をイメージした。しかしソーシャルメディアの企業活用について調べる中で

それ行け! エンドーくん

文・かもやしんじ 絵・きわださとみ

※注 意 フェイスブック結用の効果には個人差があります。マンガはあくまでもイメージを表現したものです。効果的な活用方法をともに学びましょう。



岡さんは、販売促進だけではなく、お客様と企業の新しいコミュニケーション方法としてソーシャルメディアを活用した事例を知った。

ソーシャルメディア活用の先進企業である米国・

スターバックス社はインターネット上のオープンな場で、ファンと対話交流し経営改善を行う「My Starbucks Idea」というコミュニティを設けている。岡さんは「My Starbucks Idea」のように、お客様が経営参画するような関係をつくるのが理想だと考えた。ユーザー数が増え始めたフェイスブックにページを設け、8番らーめんファンの方と広く楽しく対話交流するところから始めた。本来「友達」同士の会話の場であるフェイスブック。そこに、企業のコミュニケーション大使として「ハチコ」を置き、「楽しく」会話をスタートさせたのである。

新商品の発売に先駆けた試食会をフェイスブック限定で告知した際には、定員を超える応募があった。ネットで話題を上げたことから、期間限定の新商品を販売すると3か月の販売予定数量が3週間で完売した。岡さんは「フェイスブックには、口コミや自分のブログを通して情報を広める力が高い人が集まっています。試食会に関わった方が感想を添えて情報発信して下さいました。ファンの方にはいろいろな意見も頂き、ありがとうございます」と手ごたえを語る。

岡さんの次の目標はフェイスブックを通してファンの方とともに商品を開発すること。「皆さんと一緒に作っていく8番」を目指します」と岡さん。岡さんによると、フェイスブック運用の秘訣は「ちょっとだけ憧れの存在になること」だという。「友達」にはなれないけど、今までの企業とお客様の距離程離れていない「ちょっとだけ憧れ」の存在になって応援してもらえるよう、今日も岡さんは社内の話題をフェイスブックにアップする。



8番らーめんのフェイスブックページ
<https://www.facebook.com/hachibanramen.jp>



キャラクターのハチコと並ぶ岡さん

自治体の情報発信 金沢市、小松市

フェイスブックによる情報発信は、民間だけにとどまらない。佐賀県武雄市はフェイスブックを活用し、ホームページに代えてフェイスブックで情報を発信している。石川県内でフェイスブック活用に積極的に取り組みをしている自治体のうち、金沢市と小松市の担当者に話をうかがった。

金沢市がフェイスブックの本格運用を開始したのは、4月である。広報広聴課、情報政策課という情報と広報を担当する課の職員に加えて、各部局から1名ずつをフェイスブック担当職員とし、14名の職員で「金沢市公式フェイスブックプロジェクトチーム」が発足した。

職員がとりかかったのは、まずはルールづくり。前例のないツールを活用するために、運用方法を議論することから始まった。「従来の広報文書には上司のはんこをもらい、決裁を受けることが必須であったが、スピード感をもたすために、必ずしも文書決裁は必要としない」「いったん非公開の下書き用ページに投稿し、チームのメンバーが文言や見え方を確認したうえでフェイスブックに投稿する」「従来のメディアとは異なり、文章があまり硬すぎではダメ」「フェイスブックだけで市民と対話するわけではない。あくまでも既存媒体である新聞、テレビといった媒体での情報発表を優先する」—こういったルールが確認された。

フェイスブックの特性である速報性は活かされている。出先の市民センターが停電によってオンライ

ンが停止、住民票が発行できなくなった際には、近隣のセンターの利用を呼び掛けたほか、警報や注意報などの災害情報も伝えられる。

プロジェクトチームは、現在、各部局2名ずつに増員され、計30名あまりとなった。広報広聴課の戸出大輔さんは、「金沢出身の方で県外在住の方をはじめ県外の方からも金沢への想い出や応援のコメントをいただくととてもうれしいですね」と手ごたえを語り、プロジェクトチーム副リーダーの田村友美さん（行政経営課）は「フェイスブックの導入によって、職員が部局を超えて情報発信に関わるようになり、意識改革にもつながった」と庁内での効果を話す。10月には、ページの「いいね！」数つまり読者数が5,000人を超え、全国の自治体では第4位となっている。

小松市のフェイスブックページは5月から本格運用が始まった。現在、担当者は庁内全体で60人に上る。フェイスブックが持つ速報性を活かそうと、担当者の現場判断で投稿できる仕組みにした。投稿には極力、担当者の名前を入れ、写真に顔が出るように工夫した。「顔が見える小松市役所」を目指し、小松市のファンを増やすためである。投稿の中には顔文字を用いたり、小松市のイメージキャラクターである「カブッキー」も登場するなど、親しみやすさを演出する。広報秘書課の千葉清二さんは「広報誌では紹介できなかった『小ネタ』も掲載するなどの工夫で、行政と市民の皆さんとの距離が縮まるようなツールになればと思っています」と話し、一層の活用に意気込んでいる。



いいね金沢(金沢市役所)のフェイスブックページ
<https://www.facebook.com/CityofKanazawa>



いよっ小松!(小松市役所)のフェイスブックページ
<https://www.facebook.com/cityofkomatsu>



金沢市公式フェイスブックプロジェクトチーム副リーダーの田村さん



小松市フェイスブックページの特徴を語る千葉さん

石川県中小企業団体中央会

石川県中小企業団体中央会は、ホームページで公式な情報提供を行ってきたが、会員や一般の方により身近な情報を提供しようとの狙いで、1月からフェイスブックページを運用している。

情報企画課の梶川嘉彦さんと遠藤正樹さんが中心となり、職員全員が投稿を担当する。身近に感じてもらうために、投稿する際、担当者は所属と名前を書き込むのがルールとなっている。顔見知りの会員が「Aさんが投稿している」と共感してくれるのももちろん、初めて会う会員が「いつも投稿しているBさんってどんな人なんだろう」と出会いを楽しみにしてくれる効果もある。

職員が会員企業を訪問した際には、会員企業の様子を写真入りで紹介し、会員相互の親しみも感じてもらう。イベント開催時には、職員がカメラやモバイルを持参し、現場からリアルタイムで状況を知らせることもある。

今年5月から来年3月まで、中央会の主催により、JR金沢駅内の金沢ステーションギャラリーで「技で魅せる いしかわの伝統工芸」が開催されている。伝統的工芸品PR事業を担当するコーディネーターの田尻典子さんは、「フェイスブックにもコメントが投稿され、イベントの手ごたえを実感できます」と笑顔で感想を話している。



石川県中小企業団体中央会のフェイスブックページ
<https://www.facebook.com/icnet.ishikawa>



会員企業や団体を訪れ、フェイスブックに投稿するため取材する情報企画課の梶川さん（右）と遠藤さん



イベント会場からも情報をフェイスブックに投稿する

いかに多くの人にファンになってもらうか

ソーシャルメディアの登場は、企業や団体、行政をはじめ社会を取り巻く環境を大きく変えた。情報も人脈もフェイスブックをはじめとするソーシャルメディアによって得られるようになった。従来の広報紙やマスメディアを使った広報、宣伝とは異なり、読み手とのつながりが生まれやすく、簡単に情報を発信できる。そこで生まれたつながりをいかに多くの人にファンになってくれるように結びつけるかが活用の課題となってくる。ご紹介した団体や企業のページを参考に、ファンを増やし、お客さまの声を反映した団体・企業活動につなげてみてはいかがだろうか。



加茂谷 慎治

(かもや しんじ)

株式会社エイチツーオー
 代表取締役クリエイティブディレクター
 北陸フェイスブック研究会会長

【事業のテーマ】

新しいこと、ワクワクすることを創り出す。ライティングと講演を通して感動を伝える。
 志を信じ、情熱を持って社会を動かす。多くの人の役に立てるよう自分を磨く。

【出身校】

1987年 関西学院大学卒業

【職歴】

2008年～ デザイン総合プロデュース業 株式会社エイチツーオーを設立、現在に至る。

【その他】

公益財団法人全国法人会広報委員
 石川県男女共同参画審議会委員
 いしかわ観光特使

ホームページ <http://h2o-d.jp/>
 ブログ <http://kamoya.h2o-d.jp/>

【生年】
 1964年 石川県金沢市生まれ

こちら中小企業労働関連施策情報室

労働契約法の一部改正		平成24年8月10日 公布
掲載URL	http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/keiyaku/kaisei/	厚生労働省ホームページ
【主なポイント】 (1) 有期労働契約の期間の定めのない労働契約への転換 (2) 「雇い止め法理」の法定化（有期労働契約の更新等） (3) 期間の定めがあることによる不合理な労働条件の禁止		

平成24年版労働経済白書の概要		平成24年9月14日 公表
掲載URL	http://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/	厚生労働省ホームページ
【主なポイント】 「分厚い中間層の復活に向けた課題」と題し、自ら働いて人間らしい生活を営むことができる「分厚い中間層」の復活が、日本経済の需要面では所得増、消費増を通じた需要不足の解消に、供給面では経済社会、社会保障を支える基盤強化につながるという観点から分析している。		

雇用調整助成金・中小企業緊急雇用安定助成金の支給要件等の変更		平成24年10月1日 実施
掲載URL	http://www.mhlw.go.jp/general/seido/josei/kyufukin/a-top.html	厚生労働省ホームページ
【主なポイント】 (1) 生産量要件の見直し →最近3か月の生産量または売上高が、前年同期と比べ10%以上減少（中小企業事業主で、直近の経営損失が赤字であっても、この要件が適用されます） (2) 支給限度日数の見直し →①利用開始日を平成24年10月1日以降に設定する場合 1年間で100日（3年間で300日） ②利用開始日を平成25年10月1日以降に設定する場合 1年間で100日（3年間で150日） (3) 教育訓練費（事業所内訓練）の見直し →平成24年10月1日以降の判定基礎期間から 雇用調整助成金 : 1,000円 中小企業緊急雇用安定助成金 : 1,500円		

労働者派遣法の改正		平成24年10月1日 施行
掲載URL	http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/haken-shoukai/kaisei/	厚生労働省ホームページ
【主なポイント】 (1) 事業規制の強化 (2) 派遣労働者の無期雇用化や待遇の改善		

「地域中小企業の人材確保・定着支援事業」を実施しています =取り組み報告②=

本会が今年度取り組んでいる「地域中小企業の人材確保・定着支援事業」の実施したセミナー等についてご報告させていただきます。



STEP 1 (就職準備段階)

●学生と若手社員の相互学習・成長セミナー

就職活動前の大学1～3年生が、比較的學生に近い感覚を持つ企業の若手社員から、県内の中小企業で働くことの面白さや仕事上の課題を一緒に考えることで、學生にとっては働くことの魅力を知り、就職活動に活かしてもらうこと、若手社員にとっては、自分の仕事の魅力を再発見してもらい、職場への定着を促進することを目的としています。

セミナーは株式会社クオリティ・オブ・ライフの原 正紀代表取締役を講師に招き、8月23日(木)、9月4日(火)、9月18日(火)の3日間、石川県政記念しいのき迎賓館で開催しました。

最終日には、参加企業の上司や参加学生の大学就職担当者が発表会を見学し、参加者の今後に大いに期待するという声が聞かれました。



●学生等の親向け企業魅力説明会

昨今の学生が就職活動をする際に、両親の意見が大きな影響を持つことから、両親に対して現在の就職活動の実情を理解してもらい、更に県内中小企業で働くことの魅力を伝え、一番身近な社会人として、子供の就職活動に理解を求めることを目的に、9月8日(土)にいしかわ総合スポーツセンター、10月6日(土)に北陸学院大学で開催しました。

参加した両親らは、自分たちの時代の就職活動の実情との違いに驚かれたようでした。11月10日(土)に金沢勤労者プラザでも開催を予定しています。



STEP2 (就職活動段階)

●中小企業の逆アプローチ型魅力説明会

7月29日(日)地場産業振興センター「大ホール」にて、合同企業面接会を開催しました。当日の参加企業数48社、参加学生数132名でした。

当日は第1部として、企業が学生テーブルを回って自社を説明する通常の合同面接会とは「逆パターン」方式、第2部では、学生が企業テーブルを回る「通常パターン」で行いました。

内定獲得のため、真剣に企業の話聞く学生たちの姿が印象に残りました。



●石川ふるさと企業魅力発信事業

県外で開催される就職イベントに参加し、県内中小企業へ就職してもらうことを目的にU・Iターン相談会を開催しました。

7月24日(火)～25日(水)に東京就職博に、9月18日(火)～19日(水)に大阪就職博に参加し、県内中小企業の情報を発信しました。

写真は大阪就職博での相談の様子です。



STEP3 (入社以降)

●中小企業新入社員「成長」フォローアップセミナー

入社後1～3年目の若手社員の早期離職率は3割を超える現状の中で、早期離職抑制を図ることを目的に、若手社員の教育係を担う中堅社員自身が成長するためのセミナーを株式会社イニシアチブ・パートナーズの川口雅裕代表取締役を講師に招き、7月17日(火)に地場産業振興センター(金沢市)で、8月29日(水)に石川ハイテク交流センター(能美市)で、9月26日(水)に七尾商工会議所(七尾市)でそれぞれ開催しました。



写真1 (中堅社員セミナー)

セミナーでは、「自己変革」「チームビルディング」「組織開発」をテーマにグループワークを交えて行いました。(写真1)

併せて、若手社員自身が成長することを目的としてセミナーをジョブカフェ石川で就職支援を行っているジョブサポーターを講師に招き、10月4日(木)に小松商工会議所(小松市)で、10月11日(木)に七尾商工会議所(七尾市)でそれぞれ開催しました。

セミナーは、新入社員に求められる基本的なスキルを向上させることを中心に行われました。(写真2)



写真2 (新入社員セミナー)

●戦略的人材採用・育成ノウハウ習得セミナー

昨今の学生の特徴として、高い学力や専門知識を持っているが、コミュニケーション能力に乏しく、社内で能力を発揮しきれないということが目立っています。

そこで、人事担当者向けに採用面接～内定～入社・入社後3年未満までの期間における対応についてのセミナーを、株式会社文化放送キャリアパートナーズ就職情報研究所の夏目孝吉所長を講師に招き、8月7日(火)、9月14日(金)、10月9日(火)石川ハイテク交流センター(能美市)でそれぞれ開催しました。



“個人も企業も成長する” ワークライフバランスセミナーを開催

8月31日(金)地場産業振興センターにおいて、石川県健康福祉部少子化対策監室の協力を得て標記セミナーを開催し、50名が参加しました。

男女とも働きながら子育てや親の介護ができるように、仕事と家庭を両立しやすい環境を整えることは、従業員の生活を充実させ仕事への意欲を高めることにつながり、企業にとって「優秀な人材の確保・定着」や「業務の効率化」などが期待されることから、ワークライフバランスは今後の経営戦略として重要な位置づけとなっています。

また、平成21年3月にいしかわ子ども総合条例が改正され、平成25年4月から従業員50人以上の企業に対して、一般事業主行動計画の策定・公表が「義務化」されることになり、企業におけるワークライフバランス対策等をより積極的に取り組む必要があります。

講師の株式会社東レ経営研究所 ダイバーシティ&WLB推進部長 宮原淳二氏からは「ワークライフバランスは企業にも従業員にもメリットがある。長期的な視点で取り組み、企業と従業員が一体となって実行していくことで、個人も含めた企業全体の発展を図ることができる。」といったことが話されました。



セミナーの様子

新たな販路を目指して、イトーヨーカ堂と商談 食の商談会と事前セミナーを開催

県内中小企業事業者の「食」に絞った商品の新たな販路拡大を目的として、標記事業を実施しました。
この商談会は、(株)イトーヨーカ堂とタイアップし、大手ネット通販サイト「セブンネットショッピング」への出店を目指しました。

参加事業者は、8月8日からスタートした3回的事前セミナーと個別相談等において、大手流通のバイヤーにアピールするための『品質管理』『商談シート』『商品・生産現場写真』という3つのポイントについて、ブラッシュアップを行い、商談成功率アップを図りました。



イトーヨーカ堂食品担当バイヤーによるセブンネットショッピングの販売戦略の説明



本事業のトータルコーディネーターである専門家 勝瀬典雄氏による個別相談会



商談会本番を前にグループに分かれてロールプレイングを実施



プロの商品写真カメラマンによる撮影手法に対するブラッシュアップ支援

事前セミナー、個別相談会、専門家派遣などのブラッシュアップ支援を経て臨んだ商談会（9月28日(金)石川県地場産業振興センター）では、イトーヨーカ堂から7人のバイヤーが来場し、お米や生鮮食料品からカレー、醤油といった様々な商品を取り扱う25事業者が参加、そのうち16社が商談成約見込みとなるなど、大成功を収めました。



商談の様子



NHKのTV取材もありました

＝夏休み特別企画＝加賀友禅彩色体験教室を開催

金沢駅の金沢ステーションギャラリーにおいて開催中の“技で魅せるいしかわの伝統工芸（実演会）”の夏休み特別企画として、今年も8月の毎週日曜日に協同組合加賀染振興協会さんのご協力を得て、加賀友禅の彩色体験教室を開催しました。

初日にはミス加賀友禅の北山真紀さんも来場し、参加者と一緒に体験しました。事前予約により小学生から年配の方まで期間中98名の方が参加し、大盛況のうちに終了しました。参加した子供たちからは「とても難しくてびっくりしたが、楽しかった」などの感想がありました。



初日にはミス加賀友禅も来場し、子供たちと一緒に体験しました



真剣な眼差しで伝統工芸士の説明を受ける参加者

なお、実演会は3月24日までの土・日・祝を中心に開催しています。実演スケジュール等は本会ホームページでご確認ください。

石川の伝統工芸、まだまだ魅せます！

〈実演会の様子〉



輪島塗



九谷焼



山中漆器



金沢仏壇



金沢和傘



加賀毛針



檜細工



和紙



第64回中小企業団体全国大会（宮崎県）へ参加



全国大会の様子

全国中央会と宮崎県中央会の主催による、第64回中小企業団体全国大会が、去る10月25日（木）、「組合 絆 ルネサンス 日本は一つ」を合い言葉に、フェニックス・シーガイア・リゾート（宮崎県宮崎市）において開催され、全国から中小企業団体の代表者等2,500名が参集しました。

本県からは五嶋会長をはじめ、15名の方々にご参加いただきました。参加者の皆様には、厚くお礼を申し上げます。

本大会には国や政党、地元行政、関係機関の代表など多数の来賓が出席しました。

議事では、矢野久也議長（宮崎県中央会会長）、宮川孝昭副議長（滋賀県中央会副会長）、小正芳史副議長（鹿児島県中央会会長）の下、「地域産業の再生・発展への支援の強化」、「東日本大震災からの復旧・復興の加速化」並びに「組合等連携組織対策の強化」を具体化するための中小企業対策の拡充に関する12項目について決議しました。

大会開催に先立ち、宮崎県の口蹄疫被害に対する支援活動を行っている、歌手の泉谷しげるさんのトーク&ライブが行われ、会場を大いに盛り上げました。

また、決議案に関連して、中村鉄兵 宮崎県中央会青年部会長が、地域社会の絆を再生し、持てる力を組織に結集して、豊かな日本が再生されるよう全力を尽くすことを誓うとした『大会宣言』を高らかに宣言し、満場の拍手の下、採択されました。



本会から参加の皆さん



泉谷しげるさんのトーク&ライブ

大会の他、宮崎県畜産試験場、霧島酒造株式会社の芋焼酎製造工場への視察や鶴戸神宮、島津邸の見学などを行い、充実した2泊3日の行程となりました。

なお、大会では、全国中小企業団体中央会会長表彰として、優良組合34組合、組合功労者70名、中央会優秀専従者29名が表彰され、本県からは下記の方々が受賞されました。心からお祝いを申し上げます。



鬼の洗濯板（宮崎市青島）

石川県からの受賞者

*
組
合
功
労
者
*



石川県ビルメンテナンス協同組合
理事長 **常少 常三氏**



石川県菓子工業組合
理事長 **中田 龍一氏**



宮崎県畜産試験場への視察

なお、今回の第65回中小企業団体全国大会は、平成25年10月24日(水)、滋賀県において開催されます。多数のご参加をお待ちしています。

第64回全国大会決議

～組合の絆を活かした地域産業の発展～

I. 地域産業の再生・発展への支援の強化

1. デフレ脱却のための総合的な経済対策等の実施
2. 万全な資金繰り対策の継続及び中小企業金融機能の拡充
3. 事業承継の円滑化等中小企業関係税制の拡充
4. 社会保障制度の見直し
5. 中小企業の実態を踏まえた労働・教育対策の推進
6. 公正な競争環境の整備、官公需対策の強化
7. 商店街等及び中小小売商業の活性化支援の拡充
8. 中小流通業・サービス業振興対策の強化

II. 東日本大震災からの復旧・復興の加速化

1. 被災中小企業・組合等の復旧の継続支援の拡充
2. 原発事故の早期収束

III. 組合等連携組織対策の強化

1. 組合組織の位置づけの強化
2. 中央会の組合等連携組織対策予算の拡充

地域野菜「金沢湯涌かぶら」 地域ブランド化に向けて前進

本会では平成22年より、かつて金沢の湯涌地域で栽培されていた幻の地域野菜「湯涌かぶら」を復活させるため、地元農家など有志で構成されたプロジェクトチーム「湯涌かぶら利用拡大協議会」とともに、金沢湯涌かぶらの地域ブランド化に向けてお手伝いをしています。

「金沢湯涌かぶら」は、今から約280年前の「加賀国物産誌」にその名が記録されていますが、今では栽培されていない幻の地域野菜でした。「長く大根のようで風味も良く、湯涌かぶらと呼ばれる」などと記されており、石川県県央農林総合事務所の指導を仰ぎながら、かぶらの品種交配を重ね、伝説の金沢湯涌かぶらを復活させました。

今年度の取り組みは大きく分けて2つあり、1つ目は湯涌地区の「休耕地の活用」です。湯涌地区には休耕地が多く、その休耕地を有効活用することにより「金沢湯涌かぶら」の生産拡大と地域活性化に繋げていきます。今年は4ヶ所で栽培を行い、作付面積は去年の4倍で、収穫量はおよそ15,000本を予定しています。

2つ目は、金沢湯涌かぶらの「流通拡大」を目指します。「出荷等級」や様々な基準（大きさ、形、色など）をしっかりと定め、安定的な出荷体制の確立を行い、販路の強化をはかります。家庭の食卓に湯涌かぶらが並ぶためには、まず知名度を高め、地元金沢市民の認知度を高めない限り、地域の特産品として認知してもらえないため、金沢市農業協同組合（JA金沢市を中心とした「ほがらか村」4店舗への出荷）と連携して流通可能なシステムを構築します。

さらに、2～3年後の中央市場への出荷を目指すために、現在、体制整備を図っているところです。

今年の湯涌かぶらは、12月上旬頃に出荷・発売することとなっています。地元の農家の方々も、「皆様に美味しい湯涌かぶらを食べてもらいたい!」と大変盛り上がっていますので、是非、御賞味下さい!



金沢湯涌かぶら



金沢湯涌かぶらの種蒔き風景

加賀の紅茶2012 新茶発表会

『茶室で和紅茶のおもてなし』in時雨亭を開催

本会が支援する、平成21年より日本茶の小売専門店で組織する「石川県茶商工業協同組合」に和紅茶づくりを働きかけ、同組合と緑茶を生産する「打越製茶農業協同組合」の有志により立ち上げられた「茶レンジの会」が開発した「加賀の紅茶」も4年目を迎えました。

この取り組みの“加賀の紅茶2012”の新茶発表会は、兼六園の時雨亭において開催され、来賓として当会 五嶋会長、金沢城・兼六園管理事務所 田中宏明所長をはじめ、茶人、詩人、紅茶愛好家など約20名が招待されました。

4年目の今年は、小雨の影響により紅茶に適している茶葉の収穫が出来ず、昨年より3割少ない、約190kgの収穫となりましたが、香り・味は過去最高の出来上がりとなりました。

この加賀の紅茶事業は、現在、石川県茶商工業協同組合の主事業となり、紅茶の販売をきっかけに主力のお茶等と一緒に販売する等、組合員の経営改善に繋がっています。また、お茶を生産・管理する打越製茶農業協同組合でも、企画力・販売力を持った石川県茶商工業協同組合がなくてはならない存在となりました。

平成26年度には、国産紅茶生産者の産地交流や紅茶愛好家の研修交流会を目的に毎年開催されている「全国地紅茶サミット」を誘致することも決定しました。北陸新幹線開業に合わせ、来県される観光客に、石川の伝統工芸、食文化等の魅力を、加賀の紅茶が提案するおもてなしスタイルで発信していくとのことです。

その他、加賀の紅茶を使用した関連商品のラインナップも徐々に増え、加賀の紅茶を使用した「加賀の紅茶のロールケーキ（プレミナンス）」、「加賀の紅茶飴」、「加賀の紅茶ジェラート（マルガージェラート）」など、どの商品も加賀の紅茶の特徴を活かした商品となっておりますので是非御賞味下さい！

この「加賀の紅茶2012」は現在好評発売中です。販売店舗やアンテナショップなどの詳細につきましては、加賀の紅茶のHPをチェックしてみてください！

○[加賀の紅茶 ホームページ](http://kaganokocha.oruke.net/) <http://kaganokocha.oruke.net/>



新茶発表会の様子（時雨亭）



加賀の紅茶ロール

好天に恵まれナイスショットの連続!? 第27回組合交流ゴルフ大会結果報告

今回で27回目となる中央会組合交流ゴルフ大会が9月28日(金)朱鷺の台カントリー倶楽部において44名の参加を得て開催しました。大会結果は次のとおりです。

(敬称略)

○優勝	沖野 幸一 石川県青鮮食料輸送協同組合
○第2位	宮前 正明 石川県中古自動車販売商工組合
○第3位	立花 信行 富来町商業近代化協同組合
○ベスト グロス賞	沖野 幸一 (OUT33、IN 34、グロス67) 石川県青鮮食料輸送協同組合



左から第2位の宮前氏、優勝の沖野氏、第3位の立花氏

がんばれ福島県! 会津若松方面への視察研修事業を実施 (事務局協議会)

石川県中小企業団体事務局協議会は、平成24年度先進事例視察研修事業として去る9月7日(金)～8日(土)の日程で、福島県会津若松方面への視察研修を行いました。

今年度の視察研修事業は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災で被災した福島県産業の実態を把握するとともに、復興支援の一助となればという想いで実施されました。

視察先として先ず、米処である福島県の造り酒屋「末廣酒造嘉永蔵」を見学し、震災後の酒造業界の影響等について説明を受けました。

続いて、福島県中小企業団体事務局代表者懇話会と「震災後の危機管理」をテーマに意見交換会を実施しました。福島県からは、懇話会会長の佐藤朝弘氏(福島合繊維物協同組合専務理事)をはじめ4名が参加され、会津地方の観光業復興に向けた取組み、福島県中央会における震災対応、中小企業支援のための活動内容等をお伺いした後、本県が経験した平成19年の能登半島地震からの復興事例を紹介し、震災を受けての危機管理等について活発な意見交換が行われました。



末廣酒造嘉永蔵を見学



福島県中小企業団体事務局代表者懇話会との意見交換

『人材養成塾・Fight!』

～集まれ! 次世代経営者たち・参加者同士のノウハウ交流～を開催 (青年中央会)

青年中央会の『人材養成塾・Fight!』は、今年度テーマを「後継者大変身プロジェクト～会社をつぶす後継者、伸ばす後継者とは?～」と題し、8月31日と9月14日の2回、オフィスクリエイトワン・21 代表の野原暢朗氏を講師として開催しました。

「自分のことは自分で決めたい!!」と思いながらも、「変わらなければいけないが、何をどうやったらいいのか・・・」と考えている若手経営者などが多い中、参加者をいくつかのグループに分け、参加者同士のノウハウを共有化し、自らの行動を導き出すことを目指しました。

今回もお互い面識のない者同士が同じテーマを討議することにより、名刺交換だけでは得られない必然的な異業種交流が図られ大成功となりました。

最終回終了後に行った修了式では、2回とも出席した受講者に対して青年中央会 直江潤一郎会長から修了証が手渡されました。



異業種交流が図られたグループ討議



終了式後の記念撮影、みなさん達成感あふれる“いい顔”をされています。

組合青年部全国代表者会議、 組合青年部全国講習会(福岡県)へ参加

9月21日(金)福岡県福岡市のホテルニューオータニ博多において、平成24年度組合青年部全国代表者会議並びに組合青年部全国講習会が開催され、青年中央会 直江潤一郎会長と事務局の2名が参加しました。

全国代表者会議には各都道府県青年中央会の代表者44名が出席し、7グループに分かれて、各青年中央会で抱える問題や課題、問題解決への取り組みとその成果についてディスカッションし、グループ毎に発表を行いました。



引き続き開催された全国講習会では、「会社経営者に求められる法律知識」をテーマにした福岡県青年司法書士協議会の皆さんによる相談ロールプレイングと営業面で大きな発想転換したことにより経営再建に成功した地元、北九州市の合資会社じじやの干物 店主 秋武政道氏による「どん底からの大逆転経営～青年経営者に望むこと」と題した講演が行われました。



平成24年9月18日(火) / 北國新聞朝刊掲載

空と繊維の街発信

＝航空祭盛り上げ＝
磨輝布3種を製作、販売
小松織物工業協同組合



小松織物工業協同組合は17日までに、航空自衛隊小松基地で23日に2年ぶりに開催される航空祭のオリジナルグッズとして、中心行事として飛行する曲技飛行隊「ブルーインパルス」

を描いた磨輝布3種類を製作した。会場で一枚500円で販売する。

全国から訪れる約10万人の来場者に、基地と空港を抱える「航空の街」と繊維産業で支えた「繊維の街」を合わせて発信する。

ブルーインパルスは空自松島基地(宮城県)を拠点に活動する6機のチームで回転したり、スモーク(煙)で大空に図形を描いたりする。小松織物工業協同組合は、絶大な人気を誇るブルーインパルスにあやかり、織物産地の小松も売り込む。

磨輝布の図柄は、曲技飛行機がスモークで空中に描いたハートの中心を矢が貫くように表現する「キューピット」と、至近距離で交差する両演目、ブルーインパルスのエンブレム(記章)。航空雑誌でも活躍するデザイナー福田智

萌子さん(東京)が図案を手掛け、細やかな部分もリアルに描写した。

生地に使われているのは、太さが通常の糸の8分の1程度の超極細繊維で、眼鏡やカメラのレンズ、パソコン、携帯電話の画面を傷付けずに汚れやほこりを取り除くことができる。極細織

平成24年9月19日(水) / 北國新聞朝刊掲載

お茶漬で九谷焼PR

石川県陶磁器商工業協同組合

～永谷園と連携、見本市に専用の器

石川県陶磁器商工業協同組合は10月3日、4日、能美市根上総合文化会館で開かれる第16回九谷焼産地大見本市で、「お茶漬け」を切り口に九谷焼の器をPRする。お茶漬けを食べる茶碗として九谷焼を気軽に使ってもらい、伝統工芸に関心が薄

い若者たちに発信する。維を織りなすことができる北陸の産地の特長もPRする。航空祭では戦闘機を描いたネクタイや傘、クッションなども提供する。グッズ製作委員会の北出智久会長は「ファンに喜ばれる製品を提供し、航空祭の盛り上げに一役買った」と話した。

日本陶磁器卸商業協同組合連合会などが昨年、10月4日の「陶器の日」に合わせ、同日を陶の器でお茶漬けを食べる「お茶漬けの日」とし、陶磁器の普及を図ることを決めた。その動きを受け、県陶磁器商工業協同組合は、2年に1回開催している大見本市で、お茶漬けがテ

マの展示をするこ

にした。



県陶磁器商工業協同組合は7月下旬、組合員に「我が家のお茶漬け」をテーマに器を募集。七福神やブドウ、ウサギ、パンダを描いた茶碗のほか、薬味入れや箸置きなど、14社から55作品が寄せられた。

大見本市では、集まったお茶漬け用の器を展示販売するとともに、お茶漬け関連商品で有名な食品メーカー「永谷園(東京)の協力を得て、大相撲の懸賞幕の複製品や、お茶漬けの歴史が記された文献を展示する。県陶磁器商工業協同組合員で展示を担当する大坂直充さんは「器でお茶漬けを食べ、地元の若い人に九谷焼を身近に感じてもらいたい」と話した。

平成24年10月4日(木) / 北國新聞朝刊掲載

九谷を着る 〜伝統絵柄7種 でTシャツ〜

石川県陶磁器商工業協同組合

北陸先端科学技術大学院大は3日までに、九谷焼振興へ、伝統的な絵柄を取り入れた「能美九谷Tシャツ」を試作した。知識科学研究科の教員、学生が県陶磁器商工業協同組合と連携し、7種類をそろえた。「着る九谷焼」として産地の知名度を高め、観光客の定番土産品を目指す。

Tシャツは、3日から能美市根上総合文化会館で始まった第16回九谷焼産地大見本市で展示された。意匠は「牡丹文」「海老文」「古九谷鶴カルタ」などで、白地に九谷

五彩の色が映える。九谷焼USBメモリーなどを手掛ける青郊(能美市)が制作協力した。

能美市が昨年設けた九谷焼産地再生戦略会議の会長を務める小坂満隆教授が中心となり、日常生活に九谷の美しいデザインを取り込もうと企画した。既に九谷焼商社担当者が愛用しており、将来的にビジネス



展開できれば、収益を九谷焼PR活動費に生かす。

小坂教授は「九谷焼は生活の中のデザインを楽しむことが基本にある。できれば風呂敷やコースターなどにも広げたい」と話した。

平成24年9月20日(木) / 北國新聞朝刊掲載

片町ラウンドコンパ 初の千人超え

2周年で規模拡大、県外、市外から続々参加

片町商店街振興組合

片町商店街振興組合は11月、同商店街を舞台とした大型の合コン「第7回片町ラウンドコンパ」を、初めて千人規模で実施する。

2年前の初開催以降、キャンセル待ちが続くなどの人気で、最近は県外、市外から参加する若者やリピーターも。2周年目の節目に合わせて規模を拡大し、歓楽街の集客アップにもつな

組合担当者の嶋崎信之副理事長も「古さを感じさせないデザインだ。Tシャツは求めやすく、九谷焼に関心を持つきっかけになる」と期待を込めた。大見本市では1着1,500円で扱う。

げる。

片町ラウンドコンパは20〜38歳の独身男女が3人一組で参加し、店舗を移動しながら計3回の合コンが楽しめる企画。2010年11月に400人規模で初めて開かれ、600人、800人と徐々に定員を増やしてきた。

11月17日に開催する第7回は定員を過去最多の



1,020人(男女各510人)に増やすことも対象年齢を22〜38歳に拡大。会場となる店舗数も19店舗と過去最多とする。

同組合によると、回を重ねるごとに知名度が向上し、富山や福井の若者も目立つようになった。県外参加者は全体の約1割に上り、繰り返し参加するリピーターも増えているという。

事務局の中西真美子さんは「楽しい思い出づくりの場を提供し、活気あふれる商店街にしたい」と話した。

平成24年9月21日(金) / 北國新聞朝刊掲載

片町が結んだ夫妻に祝福 ～組合が記念品～

片町商店街振興組合

片町商店街振興組合は20日、同組合が企画したお見合いパーティーが縁で結婚した金沢市内の会社員村田篤さん(25)、瑛子さん(30)夫婦に食事券やワインなどの記念品を贈った。

2人は2009年12月に開催された「クリスマスパーティーin片町」で出会い、会場となった飲食店「洋食屋RYO」でデートを重ね、今年7月に結婚した。10月7日の「片町ホコ天」で行われる「まちなかバイシロードパレード」への参加も検討している。

お見合いパーティーは「片町ラウンドコンパ」の前身で参加者から結婚報告は4例目。同組合の小間井隆幸理事長は「出会いの場として、片町を好きになってくれてうれしい」と話した。

平成24年9月21日(金) / 北國新聞朝刊掲載

金沢と門前 堅町交流

～若者文化相互発信へ新団体～
堅町商店街振興組合

堅町商店街振興組合と輪島市門前町のそばの市実行委員会は20日、金沢市と輪島の交流促進を目指す団体を設立した。北陸新幹線

金沢開業を見据え、県内の大学生有志を交えて、若者の視点で事業を展開することで交流を活性化させ、新たな誘客にも結び付ける。

団体は「堅町門前交流プロジェクトチーム」と名付けられ、両団体の若手や青年部が中心となって活動する。世界農業遺産「能登の里山里海」を舞台とした婚活パーティーや、堅町商店街での買い物券付き輪島特急バス乗車券作成、同商店街での御神乗太鼓演奏などを展開する。

平成24年10月10日(水) / 北陸中日新聞朝刊掲載

沢野ごぼう 上出来

～協同組合が収穫始める～
沢野ごぼう事業協同組合

七尾市沢野町にある沢野ごぼう事業協同組合の畑で、沢野ごぼうの収穫が始まっている。山あいの一面

では、副理事長の村尾忠宏さんと義妹の裕美子さんが収穫に汗を流した。

忠宏さんが、スコップで、粘土質の土をゴボウが折れないよう慎重に掘り起こした。裕美子さんはゴボ

町商店街振興組合に交流を呼び掛けた。取り組みは「輪島・金沢堅の絆事業」として能登半島地震復興基金の支援事業に採択されている。

20日にはキックオフ会議が開かれ、約20人が交流拡大を誓った。

ウにロープを巻いて腰に結び付け、体全体を使って引き抜いた。

大きいものでは長さ九十センチ、直径五センチ。秋晴れの下、畑の周りには土のおいが漂った。忠宏さんは「今年の夏は暑く、雨が降らず心配だったが、平年と変わらない出来栄」と話す。収穫は十一月中旬まで。

平成24年9月26日(水) / 北國新聞朝刊掲載

実用に磨き新金沢漆器

メキシコ、韓国の作家が開発
組合と商品化へ

金沢漆器商工業協同組合

金沢漆器商工業協同組合と、市内在住のメキシコや韓国出身の陶芸家3人が、現代生活に溶け込む漆器を開発した。母国の伝統的な色彩や象徴的なモチーフと金沢伝統の塗りの技術を融合させ、皿やトレイに仕上げた。10月5日開幕の「おしゃれメッセ2012

「かなざわこのみ」でお披露目し、ユネスコのクラフト創造都市から金沢漆器の新たな可能性を提案する。

金沢卯辰山工芸工房専

門員のマセド・マウリシオさん、メキシコ出身の、金沢美術大修士課程修了のキム・ジアさん、同大博士課程修了のイ・イルヨルさん、いずれも韓国出身の3人がデザインし、組合が技術提供した。
菓子皿や茶托

マウリシオさんはメキシコの気候を連想させるサボテンをかたどった菓子皿や茶托を考案。底面にトゲをイメージした突起を付けて、遊び心を演出した。韓国の伝統的なパッチ

ワークの色彩を取り入れたロングプレートはキムさんが考え、イさんは、漆の滑らかな質感を生かして水面の音や波動を漆器のプレートで表現した。

完成品は、しいのき迎賓館で10月5～8日に行われる伝統工芸の見本市「かなざわメッセ2012」や、同6～8日の「おもてなし茶会」で発表され、商品化を目指していく。

製品開発の一部を助成した市は「従来とは異なる新たな視点の金沢漆器が誕生した。販売開拓につなげてほしい」（クラフト政策推進課）としている。

事業計画を承認

今年のおしゃれメッセは10月5～21日、金沢21世紀美術館としいのき迎賓館を会場に行われる。25日は金沢エクセルホテル東急で実行委員会が開かれ、期間

中に実施する事業が承認された。広坂通りに整備中の生活工芸ショップ「sho

plaboモノイヒト」が開幕日にオープンすることも報告された。

平成24年10月4日(木) / 北國新聞朝刊掲載

竹や貝

金箔オブジェ

石川県箔商工業協同組合

玉川こども図書館で3日までに、金箔箔を使ったオブジェの展示が始まった。来館した子どもたちは竹や二枚貝などをイメージした作品に見入り、金箔を



代表する伝統工芸品の魅力に触れた。

オブジェは県箔商工業協同組合、金沢箔技術振興研究所が製作した「かぐやの舞台」なごさの舞台」で、市内各所で展示されている。この日は、オブジェの作品名にちなんで「かぐやひめ」などの絵本の読み聞かせが行われ、親子連れらが聞き入った。展示は14日まで。

平成24年10月11日(木) / 北國新聞朝刊掲載

香川で大型物産展

来年3月観光協定で民間交流

協同組合加賀能登のれん会

石川県内の工芸や食品の企業でつくる協同組合加賀能登のれん会は来年3月、高松市の百貨店「高松天満屋」で大型の物産展を開催する。石川県と香川県が7月に「観光パートナーシップ協定」を締結したことを契機に、香川県民に石川の食文化や伝統工芸をアピールする。

物産展「金沢・能登の美味と美枝店(仮称)」は、高松天満屋の7階催事場で1週間開く。催事場は約990平方メートルの広いスペースがあり、のれん会の物産展では通常よりも多い50〜60社が出展する予

開かれていない。同会が百貨店に開催を呼び掛けたところ、百貨店が賛同した。

石川県観光推進課によると、協定締結後に両県の民間ベースで交流が決まった第1弾となる。

定。九谷焼や輪島塗、金箔といった伝統工芸品、日本の魚介類や和菓子などのブースを並べる。のれん会によると、石川の物産展は近年、四国で

のれん会事務局は「会期中のイベントは県の意向も踏まえて内容を考える。協定によるビジネスチャンスを生かし、誘客につながる物産展にしたい」としている。

平成24年10月13日(土) / 北國新聞朝刊掲載

近江町市場が新ビジョン

市民の台所に10年の計

近江町市場商店街振興組合

課題洗い出し来年度策定
商店主にアンケート
近江町市場商店街振興組合が、2014年度末の北陸新幹線金沢開業と21年の市場開設300年の節目

を見据え、近江町の魅力向上へ向けた10年計画の中長期ビジョン策定に乗り出す。今年度は商店主らを対象にアンケート調査などを進め、市場が抱える課題を

洗い出した上で来年度にビジョン策定に乗り出す。今年度は商店主らを対象にアンケート調査などを進め、市場が抱える課題を洗い出した上で来年度にビジョンを策定。地元客の定着を図り、観光客にも一層親しまれるために「市民の台所10年の計」を打ち立てる。

近江町市場では、これまでの客に対する調査で、駐車場の狭さやトイレの古さといったハード面、休日・営業時間の統一や後継者の確保などソフト面の課題が浮上。今年度はさらに商店主からも課題を拾い上げ、中長期ビジョンに反映させる。

新幹線開業を前に案内看板の設置や休憩場所の確保など、できることから改善。近江町市場の強みである対面販売の魅力や商品の鮮度の良さなどにも磨きを

かける。

近江町市場では、2009(平成21)年4月に武蔵ヶ辻第四地区第一種市街地再開発事業として「近江町いちば館」がオープン。次の展開として、老朽化が進む立体駐車場の建て替えが課題となり、近江町市場商店街振興組合は駐車場などが入る複合施設の整備計画策定を市の支援を受けながら進めてきた。

当初は経済産業省の戦略的中心市街地商業等活性化支援事業の採択を目指していたが、同事業そのものが打ち切りとなったため、来年度にも予定していた駐車場建設は延期される見通しとなった。

計画の練り直しを迫られる中、中長期ビジョンを策定し市民や観光客に愛される市場の原点を探り、魅力向上を図ることにした。

兼六園 魅力アップ議論

～観光業界行政連携『未来をつくる会発足』～

協同組合兼六園観光協会



兼六園の魅力を高める方法について、観光業界や行政の担当者らが意見交換する「兼六園と地域の未来をつくる会」が発足し、16日に第1回会合が金沢市内のホテルで開かれた。現状の課題について話し合ったほか、近く来園者にアンケートをして新たな魅力づくりに取り組んでいくことを決めた。

2015年春の北陸新幹線金沢開業やその後を見据え、園内の茶店12店で行く協同組合兼六園観光協会が呼び掛けて実現。互いの立場で感じている誘客の課題を共有し協力して解決していく狙いで、県と市の観光部局や旅行業者、兼六園周辺の施設などの担当者16人が出席した。

兼六園観光協会の馬場康行理事長は「兼六園と周辺地域のさらなる発展に向け、忌憚ない意見をいただきたい」とあいさつ。アドバイザーの北海道大観光学高等研究センターの敷田麻美教授は「自由な発想を形にすることが、新たなブランド力の創造や来園者の満足度向上につながる」と協調した。

意見交換では、周辺施設の出発者から「独自に取り組んでいる行事もあり、連携すれば大きな成果が出る」などと会の発足を歓迎する声が上がった。また、事前の期待度と来訪後の満足度などを来園者に聞くアンケートの素案が出され、参加者間で質問内容を精査する。会は今後も定期的に会合を開く。

平成24年10月18日(木) / 北國新聞朝刊掲載

すし職人が 洋菓子作り学ぶ

石川県鮭商生活衛生同業組合

石川県鮭商生活衛生同業組合の異業種講習会は17日、金沢市の金沢勤労者プラザで開かれ、すし店店主ら約30人がパティシエから洋菓子作りを学んだ。

すし店のサービス向上を目的に年1回開催している。野々市市の洋菓子店「パティスリー ラ・ナチュール」のチーフパティシエ、鳩沢健一氏が講師を務



平成24年10月24日(水) / 北陸中日新聞朝刊掲載

創立 60周年祝う

石川県第三機器協同組合

繊維機械メーカーの津田駒工業(金沢市)の協力

企業でつくる石川県第三機器協同組合の創立60周年記念祝賀会が23日、関係者約90人が出席して金沢市内の



料亭であり、さらなる発展を誓った。

組合は1950年(昭和25年)に業務を開始し、52年4月に27社で設立した。国内外の工場視察や安全衛生教育などの活動をしている。

現在39社が加盟し、岩本工業(白山市)の岩本博之会長が理事長を務める。事務所は金沢市数月の石川県鉄工会館内にある。

祝賀会では、岩本理事長が「経済環境は厳しいが、次なる70年、100年を歩みたい」とあいさつ。

平成24年10月26日(金) / 北國新聞朝刊掲載

地元山菜で『白山ふもと漬け』

～限定発売、中央会が支援～

白山ふもと会

谷本正憲石川県知事、菱沼捷二津田駒工業社長、澁

谷弘利県鉄工機電協会会長が祝辞を述べた。

白山麓の観光協会会員でつくる「白山ふもと会」は、地元の山菜を使ったかす漬け「白山ふもと漬け」を開発した。地域の「漬物名人」が知恵を出し合い、特産品を目指して商品化。27日に白山麓周辺の道の駅などで限定発売する。

かす漬けは「白山堅豆腐カレー」に続く特産品開発の第2弾。石川県中小企業団体中央会が支援した。お年寄りが各家庭に受け継がれる漬物を基にレシピを完成。地元の協力者が持ち



うどんの塩漬け作業



わらびの粕漬け

込んだ山菜を同会が買い取り、加工施設で生産している。ウド、ワラビ、ミョウガの漬物で、27日は計400パッケージを販売する。

白山堅豆腐カレーは約5万食を販売。売り上げで、ふもと会事務局の職員2人を新たに雇用している。



うどんの粕漬け

2012年は国際協同組合年です



国連では1957年より「国際年」を設け、共通の重要テーマについて、各国や世界全体が1年間を通じて呼びかけや対策を行うよう取り組んでおり、2009年12月に国連が総会において2012年を「国際協同組合年」とすることを決定しました。

これを受けて、わが国においては、2010年8月に「国際協同組合年全国実行委員会」を立ち上げ、協同組合の価値や協同組合が現代社会で果たしている役割等について広く国民に認知されるよう取り組みを行うとともに、協同組合運動を促進させる取り組みを行っています。

2012国際協同組合年石川県記念大会を開催

10月3日（水）、地場産業振興センター本館大ホールにて、2012国際協同組合年石川県記念大会が開催されました。

今回の石川県記念大会は、本会をはじめ、石川県農業協同組合中央会、石川県生活協同組合連合会、石川県漁業協同組合、石川県森林組合連合会、北陸労働金庫の6団体の共催で開かれました。

記念大会では、オープニングに加賀宝生の演目が行われた後、記念式典が行われ、国際協同組合年のスローガンである「協同組合がよりよい社会を築きます」の実現を目指す大会宣言が採択されました。

その後、作家の童門冬二氏から「前田家に見る協同組合精神『恕』」というテーマで基調講演会がなされました。『恕』とは、「お互いに思いやる」という意味であり、前田家が石川県の武家文化を発展させた背景にある「思いやりの心」が協同組合にも通じるという話でした。



記念大会の様子



大会宣言採択後、お互いの結束を確認し、手を取り合う、各団体代表者

組合運営 Q&A

規則、規約等の定義について

Q1 協同組合の運営上、諸規約諸規程の設定は必要欠くべからざるものであるが、これらを作成するに当たって、次の原則的な説明と相違点並びにその使用される場合の事例をお知らせ願いたい。

- (1) 規則とは
- (2) 規約とは
- (3) 規程とは
- (4) 規定とは

A1 規約、規程については必ずしも明確な区別はなく、混同して使用されているので、一般的に定義づけることは困難であるが、従来の慣習並びに字義により区別すれば大要次のとおりと思われる。

- (1) 規則とは、広義に規則という場合、諸々の事項を規定した例えば定款とか規約とか、規程等を総称していわゆる「さだめ」をいうが、最狭義に規則という場合は国の立法機関としての国会以外の機関が制定する成文法＝それらは名称を規則というだけで必ずしも法的性格を等しくするものではない＝を言い、現在、最高裁判所や衆・参議院等特定の諸機関が規則制定権を認められている。なお各大臣が主任の行政事務について発する命令が規則という形であらわれていることもある。
- (2) 規約とは、例えば協同組合等が組合の業務運営その他一定の事項に関し、組合と組合員間を規律する自治法規であって定款と同様、総会において決められるべき性質をもったもので、選挙規約、委員会規約、金融事業規約、共同購買事業規約等がある。
- (3) 規程とは、例えば協同組合が組合の事務、会計その他に関して定める内部的な規律であって、主として事務遂行上必要な関係を規律する内規律的なもので、理事会等に諮り決定し得る性質をもつもので、文書処理規程、服務規程、経理規程、給与規程等がある。
- (4) 規定とは法律、定款、規則、規約、規程などの条文に定められている個々の内容をいい、普通は条文の内容を指すものと考えてよい。

組合諸規程の決定機関について

Q2 本組合では、組合運営に必要な規程類を現在作成中であるが、下記の内容は総会の承認を得る必要があるものか、理事会の決定のみにてよいものか教示願いたい。

記

文書処理規程、服務規程、人事規程、給与規程、退職金規程、昇給規程、旅費規程

A2 組合の文書処理規程、服務規程、人事規程、給与規程、退職金規程、旅費規程等主として組合の業務執行上必要な関係を規律する内規的なものの決定は、理事会の議決をもって足り、総会の議決を経る必要はない。

ただし、給与規程、退職金規程が常勤等の役員に適用される場合は、理事会の決定では事柄の性質上適当でないので、総会の議決を経て決定するのが望ましい。

なお、役員選挙規約、共同施設利用規約（実際には役員選挙規程、共同施設利用規程といっている場合が多い。）等組合の業務運営その他一定の事業執行に関し、組合と組合員間を規律する自治法規的なものについては総会の議決を経て決定しなければならない（中協法第34条参照）。

Pick up! 全国の先進組合事例

＝組合資料収集加工事業
報告書より＝

外部支援による
事業の活性化

石川県茶商工業協同組合

お茶専門店による「加賀の紅茶」の開発・販売事業

石川県中央会の支援のもと、お茶専門店と茶葉生産者が連携して和紅茶を開発し、地域産品としてのブランド化を通じて、お茶専門店の存在感向上とお茶生産者の振興をめざす。

住所 〒920-0855 石川県金沢市武蔵町10番4号	URL http://kaganokocha.oruke.net/
TEL 076-231-4385	FAX 076-231-4385
組織形態 同業種網羅型組合	設立 昭和46年5月
組合員 30人	出資金 820千円
組合専従者 -	地区 石川県
	主な業種 茶小売店
	専従理事 -

背景と目的

消費者のライフスタイルや飲料ニーズの変化により、日本茶の購入先がお茶専門店からスーパー・コンビニへとシフトし、お茶の小売店舗数も減少を続けている。石川県茶商工業協同組合でも祭りやイベントの折に新茶のサンプル配布や試飲サービスを行っているが、専門店への集客にまでは結びついていない。

専門店への来客を促すには、スーパー・コンビニで扱っていないオリジナル商品を持つ必要がある。安心・安全な商品を求める消費者ニーズに応え、地域における話題性も期待でき、広報面でも有利な「地域特産品」として、県産茶葉を使った「和紅茶」の開発・販売を通じてお茶専門店の存在感の向上とお茶生産農家の復興を目標とする。

事業・活動の内容

石川県中央会から和紅茶づくりの提案を受け、石川県茶商工業協同組合と県産茶葉を生産する打越製茶農業協同組合の有志によりプロジェクトチーム「茶レンジの会」が立ち上げられた。石川県中央会が「茶レンジの会」に対して商品開発、市場開拓、商品ブランドデザイン、広報推進といった広範囲にわたる支援を行うことで、商品として活用されていない二番茶・三番茶を「加賀の紅茶」として商品化できた。

初年度40kg生産された「加賀の紅茶」は県内のお茶専門店20店舗で販売された結果、ほぼ1カ月で完売し、商品に関する問い合わせも増えている。また、地元紙やテレビでもたびたび取り上げられるなどにより、お茶専門店の存在感は間違いなく向上している。

成果

商品としては「加賀の紅茶」単体に加え、九谷焼のティーカップとソーサーを加えた和紅茶セットを開発した。さらに、アンテナショップのフュージョン21（金沢21世紀美術館内のカフェレストラン）で加賀野菜を使ったスイーツと組み合わせた「のんびりみまっしプレート」を提供し、上々の評判を得ている。この「加賀の紅茶」は平成21年石川県優良観光土産品推奨審査で認定を受け、社団法人石川県観光連盟の推奨品となった。

今後は「加賀の紅茶」と石川県の文化を取り入れた組み合わせを開発し、石川県ブランドとして世界の紅茶愛好家に発信していきたい。



「加賀の紅茶」と九谷焼を組み合わせた「和紅茶セット」



プロジェクトチーム「茶レンジの会」

販路・市場
の開拓

商店街振興組合三条通ショッピングモール

当地ゆかりのキャラクター活用などによる顧客の開拓

奈良のシンボルシカをキャラクターとした事業や当地空ビルを改装した複合ショップ入居者による当モールには今までなかったグッズ取扱いなどで新しい顧客の開拓をはかる

住所 〒630-8246 奈良県奈良市油阪地方町10-1	URL http://www.nara-sanjo.jp
TEL 0742-26-2461 FAX 0742-26-2461	設立 昭和52年10月 出資金 1,826千円
組織形態 商店街復興組合	地区 奈良市三条通
主な業種 物販、飲食、サービス	
組合員 89人 組合専従者 1人	専従理事 1人

背景と目的

平城京遷都1300年祭を契機に、観光客の増加、またこれに向けて施行されているいろんな施策を活かすため、ショッピングモールのPRの強化、多数の起業者を新たに迎え入れることによるショッピングモール全体としての商品力を強化して魅力作りを行い、新規客の開拓やお客の来街頻度を高め、客数の増加を図ることがねらいである。

事業・活動の内容

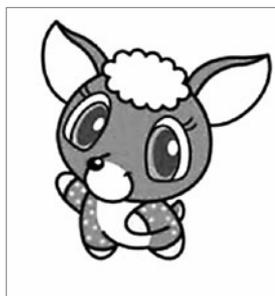
主な事業内容は、「(1) 白ちゃんをキャラクターとする事業」として、当ショッピングモールの延伸先にある奈良公園一带には奈良のシンボルであるシカが多数棲息している。かつて頭頂部のみが白い雌鹿が生まれ(1匹のみ)「白ちゃん」という愛称で親しまれていたところ、その子鹿ともども交通事故で亡くなった。このシカの白ちゃんを新たにシンボルキャラクターとして活用することになり、そのイラストを公募したところ、全国から768人953点の応募があり、審査中である。決定したあとショッピングモール入口にそのオブジェを展示するほか、ぬいぐるみ、ステッカー、Tシャツ、キーホルダー等のグッズを製作・販売の予定である。また、「(2) 複合ショップなら青丹彩(あおにさい)の開業」では、不動産会社と連携、当ショッピングモール内の空ビルを改装のうえ、3階建の複合ショップとして平成22年11月開業の予定である。本ビルには18店分の店舗が設けられるが、入居者は創業者に限られるので、インキュベーター的な性格をもつ。入居の要件としては、①地産地消、②手作り、③当ショッピングモールセンター内では今まで売られていなかったグッズを扱うものとしている。

成果

これらの事業の本格的展開はこれからということにつき、本項で述べる内容は今後期待される成果ということになる。

①組合としては、本事業活動による新規来街者の吸収、お客の来街頻度を高めることによる来街者数の増加が期待される。また、グッズ販売益が得られるがその一部は福祉団体に寄贈の予定である。

②組合員としては、来街者の増加による売上面への寄与、また組合の積極的な姿勢の認識により、組合に対する信頼感や一体感の高まりが期待される。



三条通ショッピングモール
イメージキャラクター
シカの白ちゃん



個別専門相談室開催のご案内

本会では、中小企業が正確な経営情報を獲得し、適切な経営判断を支援するため、組合、中小企業任意グループ及び公益法人等を対象とし、専門家を招聘し、事業運営等の相談に応ずることを目的とした個別専門相談室（無料）を設けておりますのでお気軽にご相談下さい。

相談は予約制（30分ごと）のため、希望の方は当日までに本会へご連絡願います。また、予約多数の場合は、相談時間の短縮をお願いする場合がありますので予めご了承下さい。

*** 連絡先 総務課 TEL 076-267-7711**

《日 程》

開催日	時間	内 容	専門相談員
12月14日(金)	10:00~12:00	税 務・経 営 相 談	税 理 士 坂 井 昭 衛
1月17日(木)	13:00~15:00	法 律 相 談	弁 護 士 久 保 雅 史

《場 所》

金沢市鞍月2丁目20番地

石川県地場産業振興センター新館5階 石川県中小企業団体中央会 会議室

「石川県最低賃金の改正のお知らせ」

時間額 693円（改正発効日 平成24年10月6日）

石川県最低賃金は、パートタイマー・アルバイト等雇用形態を問わず、石川県内で働くすべての労働者に適用されます。

使用者は、これより低い賃金で労働者を使用することはできません。

詳細は石川労働局（TEL 076-265-4425）又は最寄りの労働基準監督署にお尋ねください。

なお、産業によっては、これより金額の高い特定（産業別）最低賃金が適用されますので、ご注意ください。

また、石川労働局のホームページ <http://ishikawa-roudoukyoku.jsite.mhlw.go.jp/> もご覧ください。

県内の情報連絡員報告

平成24年

9月

- 平成24年9月期において、DI値で見ると、昨年同月比をもとに前月との増減を比べた場合、「在庫数量」以外の8項目が悪化しており、8月の改善傾向から反転した。製造業・非製造業ともに主要3項目（売上高・収益状況・業界の景況）が大幅に悪化しており、経済の停滞感が強く感じられる。業種別で見ると、好転している業種はなく、大きく悪化していたのは、製造業では、繊維工業と窯業・土石製品、鉄鋼・金属工業、非製造業は、卸売業と小売業、商店街、サービス業であった。9月期の悪化要因で特徴的だったのは、残暑の影響で、秋冬物の販売が振るわなかったため、繊維工業と衣類を扱う卸売業・小売業の生産・販売が伸びず、食欲不振で食料品製造や食料品を扱う小売業の生産・販売が伸びなかった。影響は深刻であるものの、季節要因であることから、今後の復調を期待したい。
- 製造業においては、「在庫数量」「取引条件」以外が悪化した。全ての業種が悪化傾向であるが、残暑の影響で秋冬物の販売が振るわない繊維工業、新幹線工事のピークを過ぎた窯業・土石製品、中国向け建機・織機が大幅受注減となった鉄鋼・金属工業と一般機器の悪化が大きかった。中国景気の失速の影響は非常に大きく、反日デモも重なり、大幅な減産と成約遅れを強いられているようである。また、伝統産業とその関連業種は観光客の減少と高額品の販売不振により、売上・収益が悪化しており、昨今の先行き不安からくる買い控えの傾向を象徴していると言える。この厳しい景況の中、自動車向け工作機械の製造が堅調であり、特に市場ではアメリカが堅調であったようであるが、エコカー補助金の終了もあり、今後の動きを注視したい。
- 非製造業においては、「雇用人員」以外全てで悪化した。“残暑”の影響で、秋冬物販売が振るわず衣類を扱う卸売業と小売業が、食欲不振により食料品を扱う小売業と商店街の販売が大変苦戦したようである。異常気象が続く中で、従来の季節感で対応することは難しく、根本的に季節販売計画を見直す必要があるとの声も聞かれた。観光業は、8月の反動で低調に推移したが、秋の行楽シーズンを控えて、10月以降に期待したいところである。また、自動車関連では、10月から環境税が導入されることになっており、価格転嫁できずに収益が一層悪化することを懸念する声も聞かれたため、その影響を注視したい。
- 中国などとの緊張感が業界に与える影響について、「悪影響がありそう」との回答が43.9%と一番多く、マイナスの影響を受けることを懸念している模様である。なお、「影響はない」との回答は2割弱（19.5%）に留まった。「悪影響がありそう」との回答を業種別で見ると、製造業、非製造業どちらも4割強の回答であったが、若干非製造業の方が多かった。回答した組合に具体的な要因を聞いたところ、製造業については、「中国向けの取引が減速、停滞する」が最も多かった。また、「原材料の入手に影響」との声も複数聞かれた。非製造業においては、「仕入が不安、納品遅れに繋がる」が多く、観光関連の業種においては、「中国人観光客の減少」との声も多く聞かれた。また、運送業などにおいては、日本経済の停滞に繋がれば貨物量が減少するなど、間接的な影響を懸念しているようである。今後の動向について聞いたところ、回答の8割強が「わからない、静観する」としており、今後の動向を不安視しながらも、「早く騒ぎが収まって欲しい」、「どうすればいいかわからない」といった声も聞かれた。この問題が長期化すれば変更などを検討する可能性が出てくるものの、現時点では様子見の段階にあるのではないかと考える。

平成24年

9月期 景況天気図

前年同月比

	全 体	製造業	非製造業
売上高	-46.6 (-27.6)	-54.8 (-25.8)	-37.0 (-29.6)
在庫数量	-4.3 (2.1)	6.5 (9.7)	-25.0 (-12.5)
販売価格	-25.9 (-3.5)	-22.6 (-6.5)	-29.6 (0.0)
取引条件	-24.1 (-1.7)	-29.0 (3.3)	-18.5 (-7.4)
収益状況	-55.2 (-19.0)	-61.3 (-12.9)	-48.1 (-25.9)
資金繰り	-27.6 (-8.6)	-29.0 (-6.4)	-25.9 (-11.1)
設備操業度	-51.6 (-22.6)	-51.6 (-22.6)	-
雇用人員	-17.2 (-1.7)	-29.0 (-6.4)	-3.7 (3.7)
業界の景況	-55.2 (-17.3)	-58.1 (-9.7)	-51.9 (-26.0)

※ () 内の数字は前月とのポイント差

全体の景況感

※主要3項目（売上高・収益状況・業界の景況）の平均値



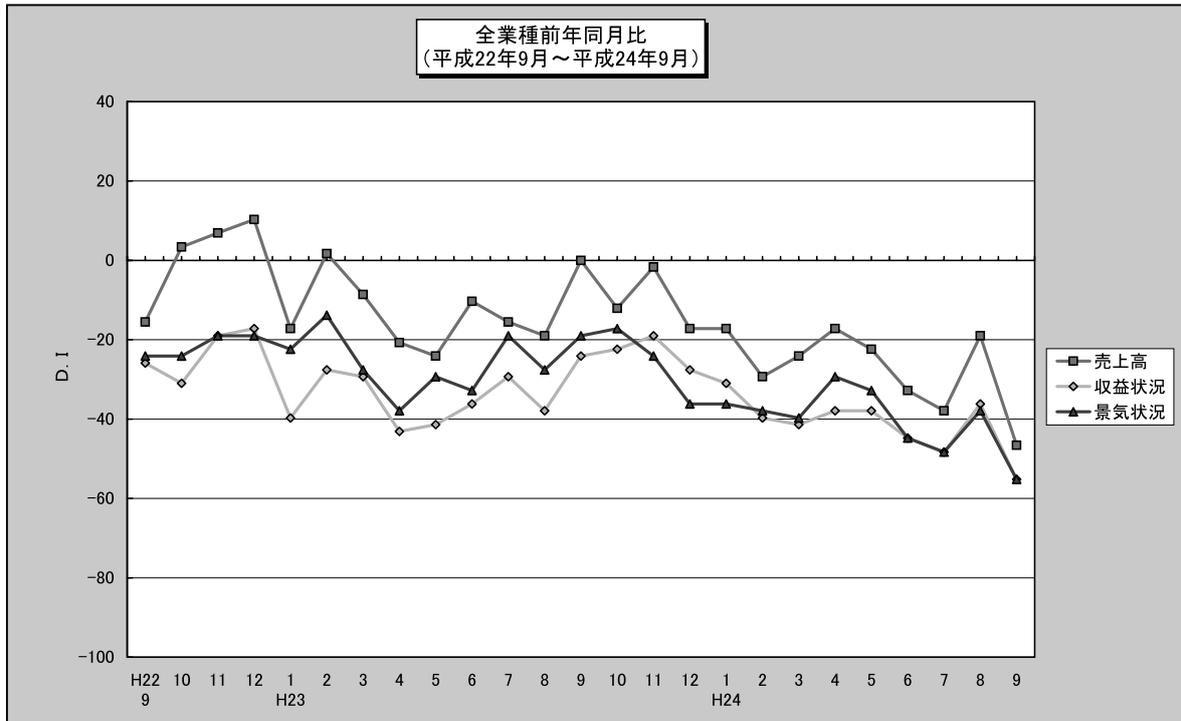
大雨
-52.3

天気図の見方

各景況項目について「増加」（又は「好転）」との回答を頂いた業種割合から「減少」（又は「悪化）」との回答を頂いた業種割合を引いた値をもとに作成しました。その基準は次の通りです。

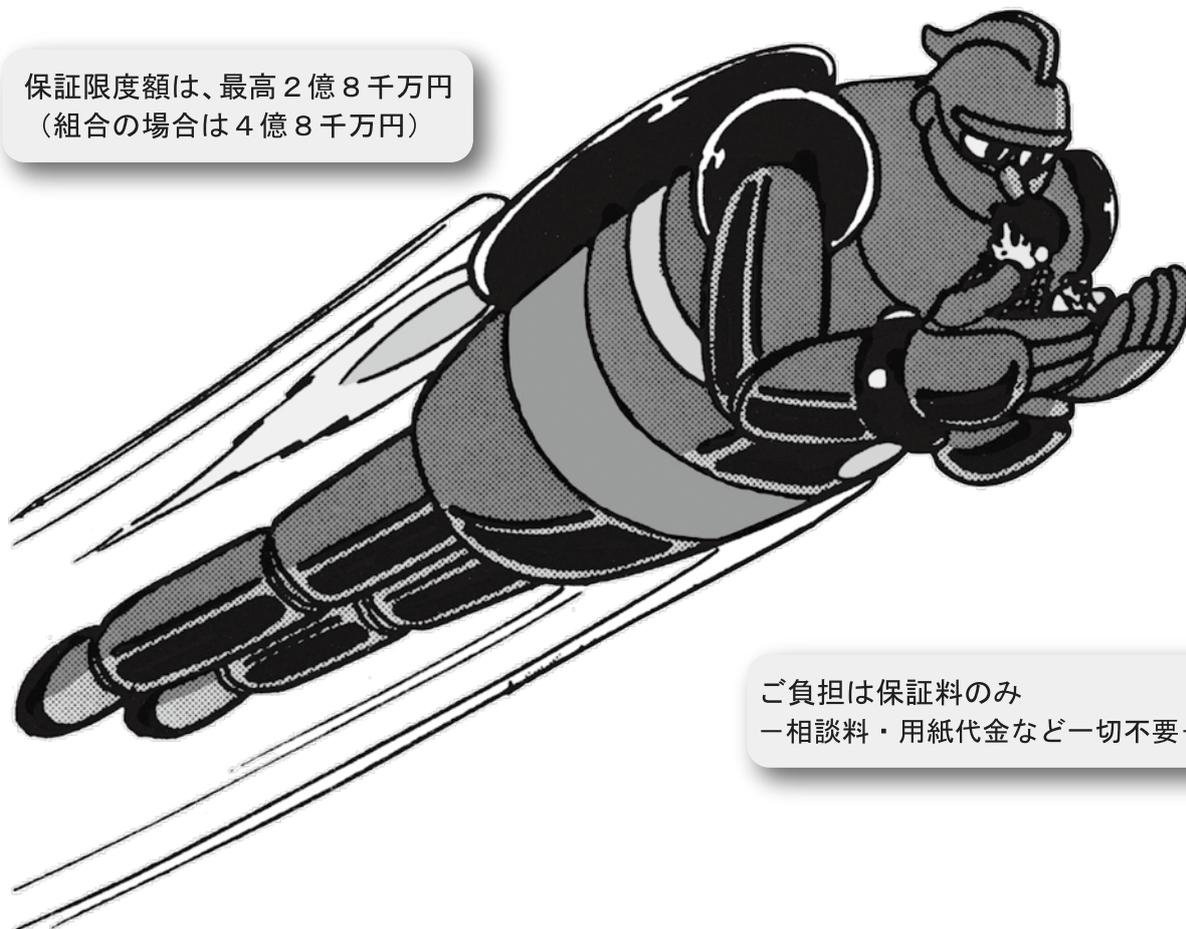
快晴 25以上	晴れ 10~25 未満	曇り 10未満~ -10未満	雨 -10~ -25未満	大雨 -25以下
------------	-------------------	----------------------	--------------------	-------------

景況の推移 (前年同月比) 石川県分 (主要3項目)



ご利用下さい「信用保証制度」

保証限度額は、最高2億8千万円
(組合の場合は4億8千万円)



ご負担は保証料のみ
—相談料・用紙代金など一切不要—

©光プロダクション

- ◎経営状況に応じたきめ細かい保証料率で資金調達を応援
- ◎法人代表者以外の保証人は原則不要
- ◎資金ニーズにあった保証制度をご用意
- ◎流動資産を担保に資金運用を効率化
- ◎セーフティネット保証も充実
- ◎長期借入れや反復継続の信用保証も可能
- ◎団体信用生命保険制度によるプラスワンサービス

活用しやすい7つの特長

 石川県信用保証協会

◇保証部◇

〒920-0918 金沢市尾山町9番25号

TEL (076) 222-1522 (代) FAX (076) 222-1514

ホームページアドレス <http://www.cgc-ishikawa.or.jp/>

石川県中央会会員組合に所属する組合員の皆さまへ

法人向け生命保険のご案内

企業を取り巻く様々なリスクに対しては、目的に合った生命保険で準備することが必要です。

生命保険でのご準備は十分でしょうか？

準備すべき	生命保険での対応方法	当社の生命保険商品
事業保全資金対策	●死亡保険金による借入金返済や 運転資金の準備従業員の給与確保	ベクトルX (3年ごと利差配当付利率 変動型新積立保険) 定期保険 - M (無配当定期保険)
経営者・役員の 退職慰労金・ 弔慰金の準備	●死亡保険金による経営者や役員 の死亡退職金・弔慰金の準備 ●満期保険金(解約返戻金)による 経営者や役員の退職慰労金の 準備	定期保険 - M (無配当定期保険) ステイタス - M (無配当低解約返戻金型定期保険) ザ・らいふ - R (5年ごと利差配当付養老保険) 新・プライド - R (5年ごと利差配当付終身保険)
従業員の 退職慰労金・ 弔慰金の準備	●死亡保険金による従業員の弔慰 金の準備 ●満期保険金(解約返戻金)による 従業員の退職慰労金の準備	定期保険 - M (無配当定期保険) ステイタス - M (無配当低解約返戻金型定期保険) ザ・らいふ - R (5年ごと利差配当付養老保険)
経営者の 事業承継対策 相続対策	●死亡保険金・満期保険金(解約 返戻金)による相続税の納税 金・自社株買取資金の準備 ●保険料支払による自社株評価引 下げへの効果	新・プライド - R (5年ごと利差配当付終身保険) ステイタス - M (無配当低解約返戻金型定期保険)

*解約して解約返戻金を受け取られた場合、
以後の保障はなくなります。
*詳しくは「各商品パンフレット」「ご契約の
しおり-約款」をご覧ください。
*ご検討にあたっては「設計書(契約概要)」、
「特に重要な事項のご説明(注意喚起情報)」
を必ずご覧ください。

【お問い合わせ】

三井生命保険株式会社 金沢支社

〒920-0853 金沢市本町 2-15-1 ポルテ金沢 7F
TEL: 076-222-0612

<http://www.mitsui-seimei.co.jp/>

Ishikawa
IT
Human Resource Development
Center

「持続的なイノベーション」を支える中核的人材の育成を目指す

株式会社 石川県IT総合人材育成センター



「いしかわビジネススクール」、「いしかわ技術経営(MOT)スクール」、情報技術に関連する研修講座を開講。研修講座の総合化と中核人材の育成に力点をおいた研修サービス、受託研修サービスなどをご提供します。

〒920-8203 石川県金沢市鞍月2丁目1番地

TEL:076-267-8000 FAX:076-268-8570

<http://www.ishikawa-sc.co.jp>

情包通心。

社会を包み支え、心通うソリューションを。

ライフラインや行政・教育などあらゆるシーンで
唯一無二の存在となった情報通信。
卓越したノウハウと技術が自慢のICCは、
今日も皆様の心に寄り添い、暮らしを包み支える
IT情報サービスを提供しています。

自治体
ソリューション

医療
ソリューション

民間
ソリューション

セキュリティ
ソリューション

アウトソーシング
サービス

ネットワーク
サービス

icc 株式会社
石川コンピュータ・センター

〒920-0398 金沢市無量寺町ハ6番地1号
TEL(076)268-8311(大代) FAX(076)268-5442
<http://www.icc.co.jp>

損害保険集団扱制度のご案内

★【自動車保険・火災保険】

石川県中小企業団体中央会では、組合員の企業経営並びに従業員の福利厚生を充実するため、会員の皆様に中央会損害保険集団扱制度(自動車保険・火災保険)のご加入をお勧めしております。つきましては、本制度について引受損害保険会社の取扱代理店が説明させて頂きたく、訪問した際にはよろしくお願いたします。

《損害保険集団扱制度の概要》

特 徴

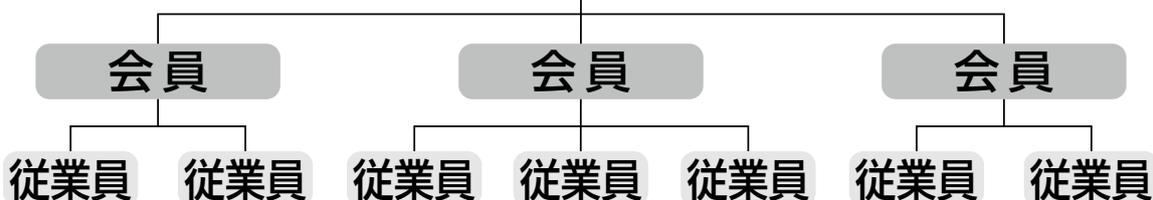
- ◎保険料は、一般契約より5%割安です。(保険料一時払の場合)
- ◎手続きは、年1回払い、口座引落しです。
- ◎下記損害保険会社と契約を行っている方は、現在契約している取扱代理店で制度利用が出来ます。
- ◎自動車保険
 - ・既加入自動車保険は、無事故割引などをそのまま継承できます。
 - ・業務用車両も対象になります。
- ◎火災保険
 - ・普通火災、住宅火災、住宅総合、店舗総合、団地保険が対象となります。

対 象

(中央会指定の確認票を提出願います。)

- ◎中央会の会員(組合・企業・団体) ◎会員の傘下企業、事業主及び従業員

県中央会



お問合せ先

石川県中小企業団体中央会 TEL.076-267-7711

〈本制度引受損害保険会社〉

三井住友海上火災保険株式会社……………TEL.076-223-9912
金沢支店 〒920-0918 金沢市尾山町6番25号

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社……………TEL.076-264-7811
金沢支店 〒920-0906 金沢市十間町5番地

日本興亜損害保険株式会社……………TEL.076-222-8610
北陸支店営業第1課 〒920-0869 金沢市上堤町2番28号

富士火災海上保険株式会社……………TEL.076-222-0005
金沢支店 〒920-0962 金沢市広坂1丁目2番24号

(2012年11月作成)

くみWai広場

こんにちは

事務局さん

飯田早百合さん(右)
中谷 久枝さん(左)



協同組合金沢問屋センター事務局

仕事の内容を教えてください

飯田さん、中谷さん：
会館貸出しなどの管理と経理に関する業務とその他事務全般です。

「座右の銘」「好きな言葉」は何ですか？

飯田さん：「何事も一生懸命に！」
中谷さん：「思いやり」

最近、「1番うれしかったこと」は何ですか？

飯田さん：今年、初めてフルマラソンに挑戦して、何とか完走できたことです。
中谷さん：この夏、中学生の娘がキッズダンスバトルの全国大会に出場し、優勝できたことです。

組合のPRをお願いします

当組合が運営する金沢流通会館では、イベントホール・会議室の貸出しを主な業務としております。今年度は、様々な設備のリニューアルを行っており、お客様に選ばれて、ご利用いただけるよう、事務局職員が一丸となって取り組んでいます。

また、組合員の方々に、事務局をもっと身近に感じてもらえるように、交流を深めていきたいと思っております。



金沢流通会館 外観

当コーナーに登場していただける事務局さんを募集中です！
自薦、他薦は問いませんので、中央会事務局まで連絡をお待ちしています！

From 編集室

金沢市内の秋もだいぶ深まってきました。何となく、感傷的になってしまう季節ですね。最近、健康のために夜、散歩をします。空気が澄んで、雲のない空を見上げながら歩くと、とても気持ちが良いものです。そんな秋の夜長、中秋の満月、オリオン座流星群なんてのもありました。考えれば考えるほど、宇宙はとてつもなく広く、謎ばかりです。



読書の秋。今春、映画化された大人気漫画「宇宙兄弟」を手にとってみました。読書と言っても漫画ですが、あなどるなかれ。少年時代に思い描いた宇宙への夢を目指す、熱く深いストーリーなんです。数々の言葉に心打たれました。今回はほんの少しだけ、紹介します。共感いただけるでしょうか？

Q プレゼントクイズ

協同組合金沢問屋センターのシンボル

【金沢〇〇会館】

は、大型で機能的なホールと研修施設を備え、展示会、講演会、パーティ、その他多目的に利用できます。是非、お気軽に当会館の貸展示場、貸会議室をご利用下さい。大型無料駐車場も整備しております！

〇〇にあてまはる漢字2字をご記入ください。
抽選で5名の方に粗品を差し上げます

編集者E

この一言、あの名言【宇宙兄弟編】

- ・本気の失敗には、価値がある。
- ・俺の敵は、だいたい俺です。
- ・リーダーと言うのはやはり、安心と興奮を同時にくれる。
- ・悩むなら、なつてから悩みなさい。
- ・死ぬ覚悟なんていらねえぞ、必要なのは生きる覚悟だ。

【金子・シヤロン】
【南波六太】
【吾妻滝生】

今後、よりよい誌面づくりを行うために読者の皆さんからのご意見、ご要望をお伺いしたいと思いますので、同封のプレゼント付き読者アンケート回答へのご協力をお願いします。少しでも多くの“声”をお待ちしています。

回答は中央会 FAX：076-267-7720 までお送り下さい。